

2008年10月28日

報道関係各位

摂津市
阪急電鉄株式会社

京都本線 正雀駅～南茨木駅間の新駅が「摂津市」駅に決定 ～同駅を日本初の『カーボン・ニュートラル・ステーション』に～

大阪府 摂津市と阪急電鉄では、「南千里丘まちづくり構想」の一環として、京都本線 正雀駅～南茨木駅間に新駅を設置することで合意しておりましたが、このたび新駅の名称を「摂津市」駅に決定いたしました。

同まちづくり構想では、深刻さを増す地球温暖化問題への対応が急務であるという認識の下、同地区を地球温暖化防止モデル地区と位置づけて事業を進めておりますが、まちの玄関口となる新駅につきましても、駅に起因するCO₂排出量をゼロにする日本初の『カーボン・ニュートラル・ステーション』への取り組みを進めてまいります。

概要は次のとおりです。

新駅について

1. 新駅名称及び名称決定の理由

- ・ 新駅の名称 **摂津市**
- ・ 名称決定の理由 摂津市総合計画に基づく市内の新都市拠点となるまちづくりの中での新駅であり、摂津市の新たな顔づくりの核となる鉄道駅となるため。

2. 駅設備の概要

地平駅舎、相対式ホーム2面、改札口2箇所、上下ホーム連絡地下通路、エレベーター2基、一般トイレ、多機能トイレ
添付資料 参照

3. 『カーボン・ニュートラル・ステーション』への取り組みについて 添付資料 参照

- ・ 太陽光発電や各種省エネルギー設備導入等により、新駅に起因するCO₂排出量を約54%削減いたします。
- ・ さらに、直接的に削減困難なCO₂（対象排出量の約46%）につきましても、排出枠購入等の方法により相殺し、新駅に起因するCO₂排出量をゼロにいたします。

<ご参考>

- ・ 新駅に起因するCO₂排出量
新駅での電力使用量（照明、エレベーターなど）、水道使用量から想定される排出量：約65t/年¹

¹ 試算値。CO₂排出量の算定は、「環境省・経済産業省温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルver.2.3」及び「大阪府営水道・工業用水道 環境会計（平成19年度決算版）」を参照。

- ・ CO₂排出量を削減する具体的施策（添付資料 参照）
太陽光発電、エレベーター回生電力利用、無水トイレ、雨水利用などの導入による
計画削減量：約35t/年（対象排出量の約54%）
- ・ 直接的に削減困難なCO₂の相殺方法
CO₂排出枠購入、グリーン電力証書購入などによる相殺：約30t/年（対象排出量の約46%）

4. 営業開始時期 2010年春（予定）

南千里丘まちづくりについて

1. まちにおける環境配慮施策

2007年11月1日付で、摂津市、阪急電鉄、開発事業者である㈱ジェイ・エス・ビーの3者間で「地球温暖化対策モデル地区」の実現に向けて連携・協力することを確認する覚書を交換しており、現在「温室効果ガス排出削減制度の導入」などの具体的な環境配慮施策を検討中です。

2. まちびらきの時期 2010年春（予定）

（補足）

「カーボン・ニュートラル」とは

市民の日常生活、企業の事業活動といった排出活動からの温室効果ガスの排出量と、当該市民、企業等が他の場所で実現した排出削減・吸収量がイコールである状態のことをカーボン・ニュートラル（炭素中立）という。（出典：環境省「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について（指針）2008年2月7日」より）

以上

【添付資料】

新駅の施設配置イメージ

「カーボン・ニュートラル・ステーション」の実現イメージ

新駅のCO₂排出量を削減する具体的施策（イメージ）

新駅イメージパース

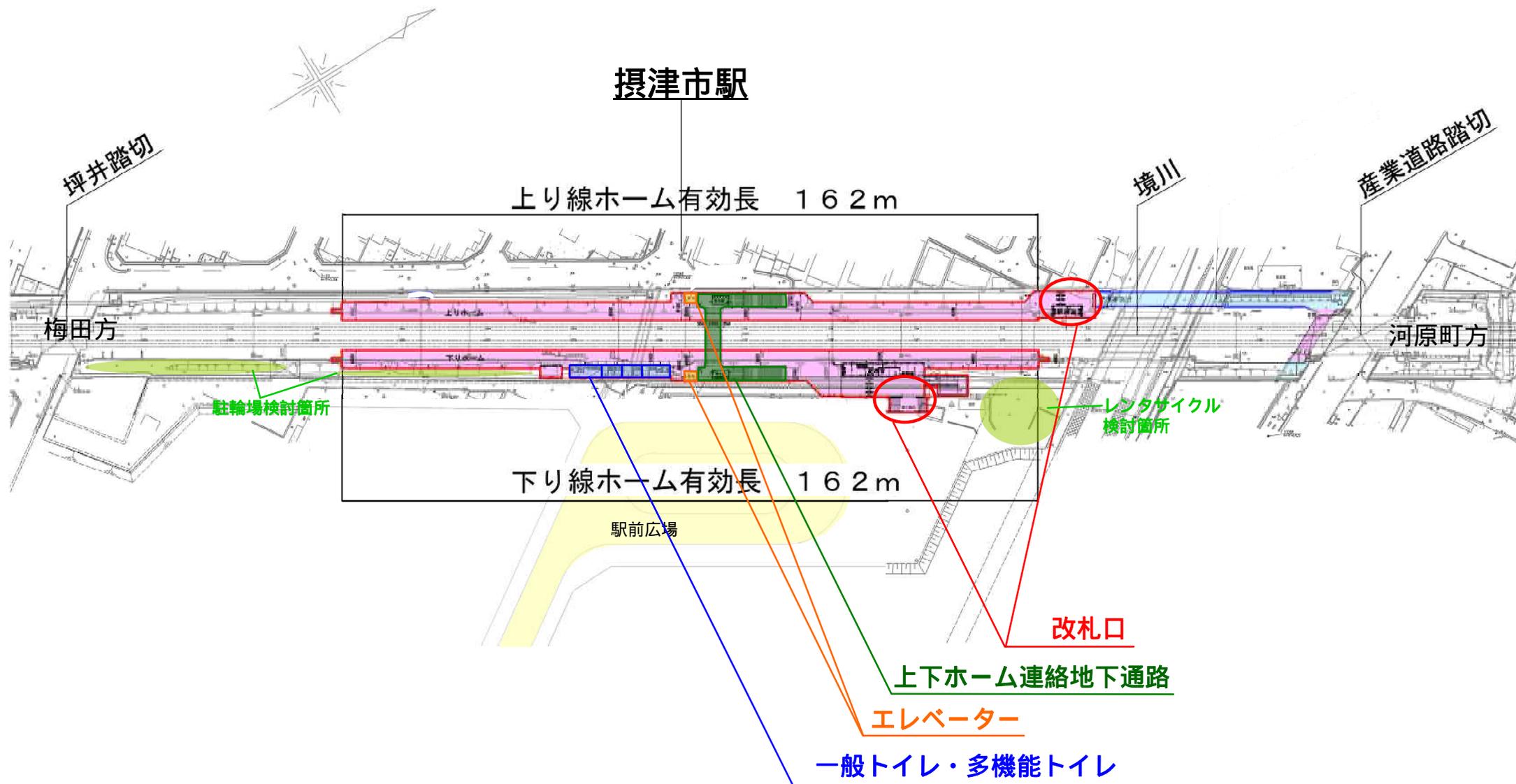
新駅計画箇所 位置図

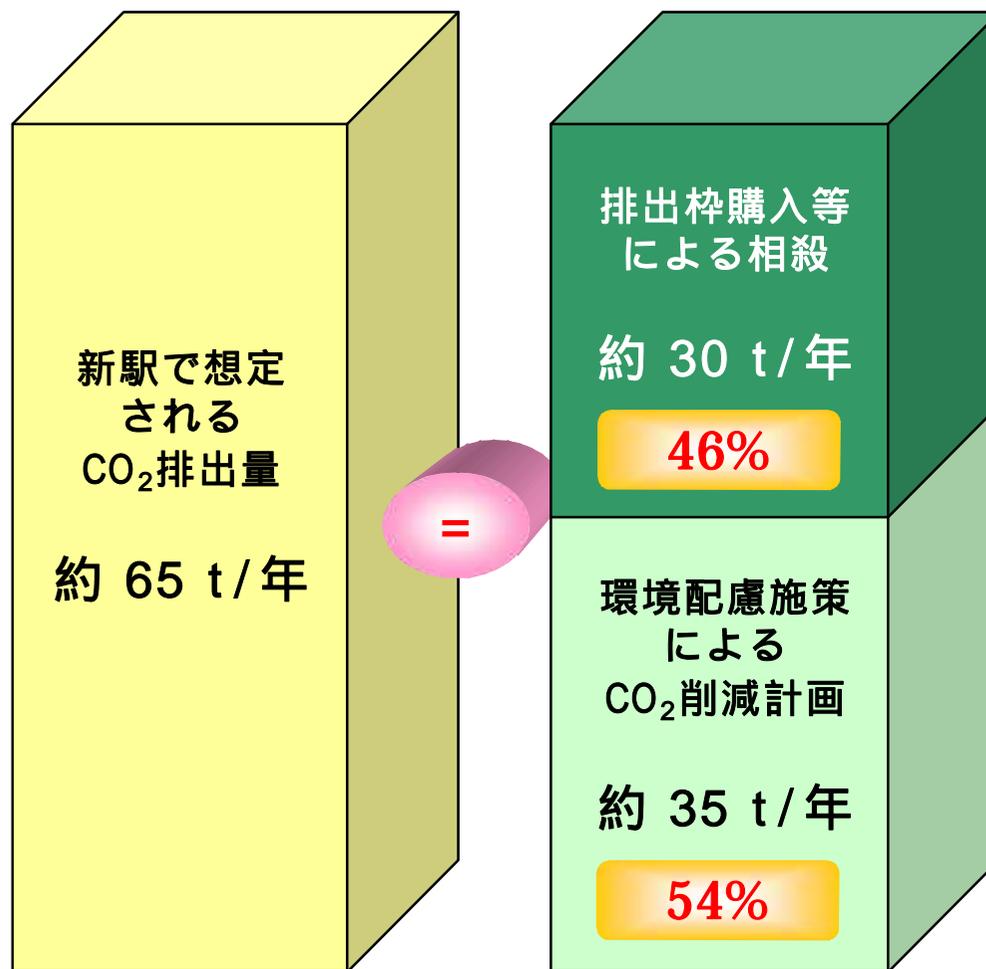
【ニュースリリース配布先】北摂記者クラブ、青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ

このニュースリリースに関するお問い合わせ先

摂津市 政策推進課 06-6383-1111(内線2148、2149)

阪急電鉄株式会社 広報部 06-6373-5092





雨水利用

ホーム上屋に降る雨水を貯留し、トイレ洗浄水や緑地散水に利用。

水道使用によるCO₂排出を削減

太陽光発電

太陽光の自然エネルギーを、駅で利用する空調・照明・駅務機器などに供給。

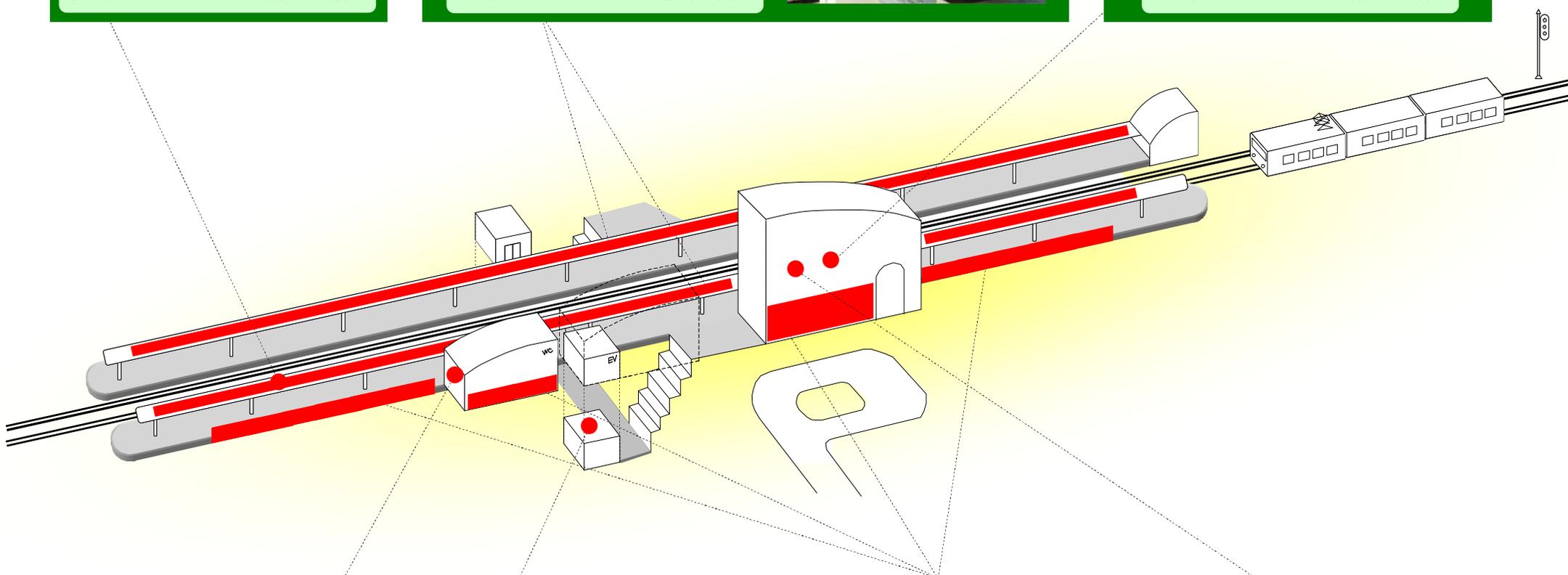
電気使用によるCO₂排出を削減



ヒートポンプ式電気給湯器

駅務室等で使用する給湯器に、ヒートポンプ方式による省エネ型機器を採用。

電気使用によるCO₂排出を削減



無水トイレ

男性トイレに、洗浄時に水を使用しない無水式小便器を導入。



水道使用によるCO₂排出を削減

エレベーター回生電力利用

エレベーターのブレーキ時に発生する回生電力を蓄電し、力行時に使用するシステム。

電気使用によるCO₂排出を削減

緑化推進

壁面緑化等の緑化施策を推進し、必要緑化面積の約2倍の植栽を実施。

樹木によるCO₂吸収を実現

LED照明

駅の照明にLEDを使用し、消費電力の低減を実現。

電気使用によるCO₂排出を削減



